


# 東部地区

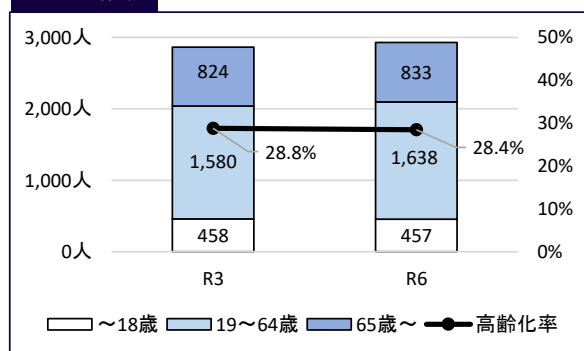
## ◆概要

	【位置図】	まち協名	東部地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市阿野田町3497	電話	0595-83-3119
		地区構成	管内町 阿野田町 北鹿島町 南鹿島町		
		地域特性	亀山市の南東に位置し、北鹿島町、南鹿島町、阿野田町、管内町の4町で構成され中央を鈴鹿川が流れています。北鹿島町・南鹿島町は、県道28号と関西本線、鈴鹿川に挟まれており、鈴鹿川以南には、阿野田町が広範囲に位置し、二本松団地を中核にした二本松地区、更に東には、管内町と樺野、中野地区が配置する形態で構成しています。住宅と農地が多く、工場・トラックステーション等が点在しています。		
面積	410.5ha	ホームページ	<a href="http://www.tobumachikyo.wordpress.com/">http://www.tobumachikyo.wordpress.com/</a>		
めざす姿	我がまちが居心地よく楽しい生活を維持し、将来に渡って豊かさを享受できるまち				
地域の誇り	長い歴史の中で大切に引き継がれてきた郷土芸能と文化				

## ◆人口

	令和3年	令和6年	増減	
総人口	2,862人	2,928人	66人	
人口密度	6.97人/ha	7.13人/ha	0.16人/ha	
65歳以上	人口	824人	833人	9人
	比率	28.8%	28.4%	-0.3%
18歳以下	人口	458人	457人	-1人
	比率	16.0%	15.6%	-0.4%
外国籍	人口	134人	213人	79人
	比率	4.7%	7.3%	2.6%

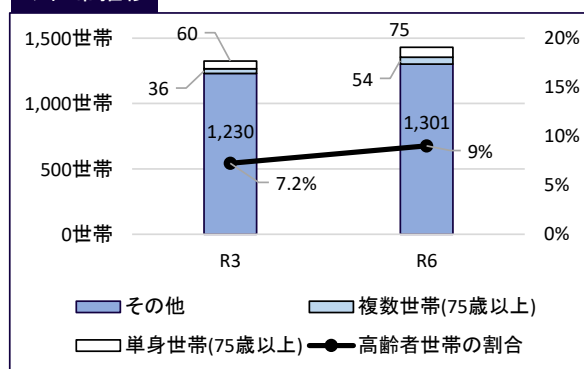
## ◆人口推移



## ◆世帯

	令和3年	令和6年	増減
総世帯	1,326世帯	1,430世帯	104世帯
単身世帯(75歳以上)	60世帯	75世帯	15世帯
複数世帯(75歳以上)	36世帯	54世帯	18世帯
高齢者世帯割合	7.2%	9.0%	1.8%

## ◆世帯推移



## ◆介護保険認定者

	令和3年	令和6年	増減
要支援1.2	52人	46人	-6人
要介護1～5	108人	97人	-11人
合計	160人	143人	-17人

## ◆地域組織

	令和3年	令和6年	増減
自治会	14	14	0
老人クラブ	1	1	0
子ども会	0	0	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	3
主任児童委員	1
福祉委員	31
介護保険施設・事業所	1
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	2
病院・一般診療所	1
歯科診療所	1
薬局	1
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	19

◆担当地域包括支援センター

亀山第1地域包括支援センター ぽたん

◆サロン活動

	令和3年	令和6年	増減
ふれあい・いきいきサロン	3	3	0
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	1	1

◆福祉委員会活動

◆構成員 民生委員・児童委員 福祉委員 老人会長

◆活動内容

【交流活動】

老人球技大会や三世代交流事業のマラソンソフトボールを行い、まち協事業として文化演芸大会を開催し、子どもから高齢者のふれあい活動を行っています。

【訪問活動】

75歳以上の高齢者見守り活動を毎月行っています。



文化演芸大会



老人球技大会

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・青壮年マラソンソフトボール大会
- ・交通安全・防災講座
- ・敬老会
- ・文化演芸大会
- ・老人球技大会
- ・環境講座
- ・干支づくり

◆生活支援コーディネーターからのコメント

東部地区の人口は2,928人で、令和3年度と比較し66人増加しています。地域内人口のうち28.4%にあたる833人は65歳以上です。地域内1,430世帯のうち、9%にあたる129世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の7.3%にあたる213人が外国籍であり、令和3年度より79人増加しています。

地域の特徴として、近隣に国道306号線や県道28号線が通っており、近隣市にアクセスしやすく、大型スーパーや医療機関が立地し住民の暮らしを支えています。

地域の活動として、文化演芸大会とマラソンソフトボール大会は地域の恒例行事で、幅広い世代が交流を深めています。2つの行事には、亀山中学校の生徒がボランティアとして運営に参加しており、毎年400名近い来場者がある文化演芸大会では司会や飲食ブースの手伝いなどを通じて住民と交流を深めています。また、地区によっては75歳以上の高齢者への見守り訪問に小学生が参加する等、住民同士の顔の見える関係性を大切にされています。今後も若年層が地域活動に参加している環境を継続するとともに、住民同士が支え合い・助け合いができる体制づくりを検討する機運が高まっていくことが期待されます。